

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】平成 17 年 2 月 24 日 (2005.2.24)

【公表番号】特表 2004-507834 (P2004-507834A)

【公表日】平成 16 年 3 月 11 日 (2004.3.11)

【年通号数】公開・登録公報 2004-010

【出願番号】特願 2002-523167 (P2002-523167)

【国際特許分類第 7 版】

G 0 6 F 3/00

G 0 6 F 13/14

// H 0 4 L 25/02

【F I】

G 0 6 F 3/00 A

G 0 6 F 13/14 3 3 0 D

H 0 4 L 25/02 3 0 1 C

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 3 月 13 日 (2003.3.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

公知の解決策は、ハブ 1 が接続されているか否かを決定するために、集積回路 7 自体が、ピン 10 を必要とするという不利な点を有する。ピンは費用がかかり、空間を必要とする。空間は、通常、例えば、携帯用機器または物理的大きさが小さい機器において非常に乏しい。

国際特許公開公報 W O 0 0 / 3 4 8 7 8 A 1 号は、データ線の 1 つと動作電圧電位との間で、抵抗器およびスイッチが接続される、U S B 周辺装置を記載する。スイッチが抵抗器と動作電圧電位とを電氣的に接続すると、関連するハブは、このハブが周辺装置と接続されているか否かを決定し得る。スイッチは、電界効果トランジスタによって形成される

マザーボードとプラグインボードとの間のプラグ接続は、米国特許明細書 U S 5 , 6 1 2 , 6 3 4 A 号に記載される。プラグインボードは、電位測定に基づいて、マザーボードとプラグインボードとの間の電氣的接続の有無を決定することを可能にする回路構成を有する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 7】

導電性構成部品が他方のピンと持続的に接続される場合、導電性構成部品は、1 0 0 k 以上の電気抵抗を有することが好ましい。電気抵抗が大きいほど、構成部品内で発生する電力損失は小さい。